

平成27年度 学校評価実施報告書

学校番号 定14

学校名 千葉県立長生高等学校

課程名 定時制

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえ課題・改善の方向)
学 校 経 営	<p>① 生徒情報交換会は、毎月1回実施しており、1月29日現在、8回実施した。生徒の情報共有が図られて、生徒理解に効果がある。出席率85.5%、退学率10.1%</p> <p>② 中学校訪問は3月に実施し、新入生の情報収集を行ったので、5月の中学校訪問は行わなかった。夏季休業中に在校生のいる主な中学校19校と不登校児支援教室3教室を訪問し、本校の紹介をすると共に連携強化を図ることができた。得られた情報については職員全員で共有し、生徒理解・支援に活用した。</p> <p>③ ホームページを月に3回程度更新した。昨年度44回で今年度は30回を数える。掲載写真の充実等、回数によらず、内容の充実を図っている。なお、検討していたネット commons の導入は、全日制が導入しないため、定時制も導入を行わない。非常時の伝達システムとして街コミメールを導入したが、スマートフォンへのインストールが難しく、導入者は停滞している。昨年度より発行の梨花便りは、8号を発行し、家庭に学校の情報を伝えている。</p> <p>④ 安全教育の充実を図るため、交通安全講話や自転車安全点検等を実施したが、12月に自転車運転中の生徒が事故に遭ってしまった。事故防止について、一層努めていく。自然災害等に対する避難訓練を4月に実施し、車椅子の生徒の避難方法を決定し訓練を行った。体育館耐震工事の関係で、避難訓練は十分出来なかった。災害時の備蓄品は、食糧を購入した。</p>	<p>① 情報交換会は今年度同様実施し、生徒理解の共有を深める。 退学率は休学生徒の退学が増えたので、目標を下回った。次年度は減少すると考えられる。</p> <p>② 2回の訪問は中学校からも良い評価を得ているので、来年度も継続することにより、本校理解の深化をはかると共に生徒情報の共有化を図る。</p> <p>③ ホームページの更新を行事ごとに行うこととし、内容の充実を目指す。更新回数は年間20回程度を目安とする。定通全国大会など長期休業期間中の話題なども掲載していく。 学校通信(梨花便り)は、引き続き発行する予定である。</p> <p>④ 交通安全講話やバイク通学者を対象とした実技講習会の参加率を高め、継続的に実施し、もらい事故の可能性も含め交通事故防止に努める。 災害が発生した場合の、実践的避難訓練の充実を努める。車椅子生徒は本年度卒業であるが、体の不自由な生徒が入学した場合には、その生徒の特性に寄り添う避難訓練を行う。</p>
学 習 活 動	<p>① 学校評価中の授業評価について、生徒指導面と絡めて分析し職員会議で報告した。学校評価における学習面での評価では、「学習の基礎・基本が身につけられるような指導を行っている。」についての肯定的意見が生徒は86%で、保護者は78%であった。この値は生徒で18ポイント増、保護者は微減であった。「授業が解りやすくするような工夫をしている」についての肯定的意見は、生徒82%、保護者80%で両者共20ポイント以上の増加であった。</p>	<p>① 生徒指導と連動した授業方法を確立して行くことが有効と思われるので、その方法を探り、実践していく。</p>

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえ課題・改善の方向)
学 習 活 動	<p>② 授業練磨の公開日を挟み授業公開を1週間実施した。実施期間における来校者数は19名であった。</p> <p>③ 授業公開週間を各学期1週間実施したが、意見交換会を設けることができなかった。アクティブラーニングに関する研修を全定合同で行った。</p> <p>④ 各種検定合格者は、【情報処理検定】2級1名、3級10名合格【簿記実務検定】3級6名合格【ビジネス文書実務検定】2級2名、3級7名、4級3名【英語検定】1級1名【電卓検定】1級1名、2級3名、3級1名が合格した。 体育館耐震工事の影響で、技能系の資格は取得がなかった。</p>	<p>② 授業公開週間期間中の、来校者数の増加を図る。本年度は郵送で通知をしたが、来訪者の増加が見られなかった。HP等の利用も含め、授業公開の周知を工夫していく。</p> <p>③ 授業公開週間の後に研修の時間を設ける等の取組をしていく。</p> <p>④ 次年度も商業科の授業を中心に各種検定に積極的に取り組み、この取り組みを継続して生徒に成就感・達成感を味わわせる。意欲ある生徒には更に高い級に挑戦させるよう指導する。 商業以外の資格についても次年度は開催が予定されている講習を積極的に受講させていく。</p>
生 徒 指 導	<p>① 登校指導を通して、挨拶の励行、遅刻指導を実施し、基本的な生活習慣の確立に努めたが、出席率は昨年度とほぼ同様であった。 生徒への指導を強化した結果、授業規律が回復されつつある。</p> <p>② 面談週間は予定どおり実施して、生徒理解を深めることができた。</p> <p>③ スクールカウンセラーによる1年次生全員に対する個人面談を実施した。</p>	<p>① さらに生徒理解に努め、家庭との連携を密にしながら欠席数の減少等、生徒指導の充実を図る。 授業規律については、授業公開の一層の充実や教材の改良等、教科的・生徒指導的な多様な視点に立って実施していく。</p> <p>② 面談週間は、次年度も同様に実施する。</p> <p>③ スクールカウンセラー利用状況は延べ年間95人であり、増加している。専門家の意見や生徒情報交換をもとに、職員の共通理解を図る。</p>
キ ャ リ ア 教 育	<p>① ちば南東部地域若者サポートステーションや中核地域支援センターひなた等と連携し、就業支援連絡会議を設け、「就業体験報告会」「就職活動報告会」を実施して生徒への啓蒙活動を行った。 今年度は学校幹旋の就職希望生徒が1・2名であったため、生徒の就業体験は1名が取り組んだ。 企業訪問も8社実施し、2会場の名刺交換会に参加した。</p> <p>② 総合学習を活用して、6月に進路ガイダンス、7月に進路講演会、11月に社会人としてのマナー講習会、1月に第3回天夢塾、進路体験発表会、2月には進路体験学習を実施し、進路実現に向けた意識の向上を図った。 「教育プログラム」は全学年で計14時間実施した。</p>	<p>① 生徒に対して、引き続き早い段階から計画的な進路実現に向けた取組を行う。昨年度の取組を改良し、講演会や体験等様々な機会を設けていく。 就労支援事業については、企業とのつながりを重視して、企業へのアプローチを続けていく。</p> <p>② 天夢塾は、3学期初めの木曜日で実施日を固定した。講師についても全定を見渡して、生徒に有用な講演を実施していく。 「教育プログラム」等進路実現に向けた取り組みは、内容の改善を図りながら、次年度も継続していく。</p>
特 別 支 援 教 育	<p>① 車椅子使用生徒については、県より配当された支援員が1名付き、生徒や保護者と意思疎通をしながら、学校生活の改善に努めた。</p> <p>② 外部NPO法人を活用した振り返りの学習支援を計画的に計27回実施した。</p> <p>③ 生徒の基本的スキルを身につけさせるため、自校の教員が講師となって「教育プログラム」を実施した。</p>	<p>① 当該生徒は本年度で卒業するので、支援員については次年度要望しない。</p> <p>② 学習支援については、NPO法人活用の特別補習の継続充実を図る。</p> <p>③ 子どもと親のサポートステーションの協力は研修の講師派遣等のみであるので、引き続き、自校で生徒に指導できるようにしていく。</p>

(第3号様式-2)

<p>学校評価の公表について (手段・時期等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3月7日、アンケート集計結果・自己評価及び学校関係者評価をホームページにアップする。 ・ 3月8日、保護者あて文書にてホームページの紹介をする。
---------------------------------	---

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
<p>学校 経営 営</p>	<p>①少子化の影響があり、学校の運営にも工夫が必要である。 教員の人数が少ないのではないかと感じる。 定時制の教員はとてよく頑張っていると感じる。 定時制は違った評価基準で良いのではないかと。 ②生徒個々の発達状況は、引き継がれているか</p>	<p>① 学校の状況は、更に落ちついてきている。引き続き、生徒指導や学習指導の充実に努めながら、生徒一人一人の個性を伸ばしていく。そのことから、職員にも達成感が味わえると考え。</p> <p>② 中学校への新入生情報獲得の訪問を入学前に行う。 夏の訪問は、中学校等の関係機関に引き続き行い、生徒情報の収集や学校のPRを行う。</p> <p>③ 現在のソフトによるホームページの向上を研究する。学校通信と合わせ、保護者との連絡を密にしていく。 緊急時の連絡方法は、多様な選択肢を用意する。</p> <p>④ 災害時帰宅困難者等への備蓄を再開した。 今後適正な備蓄を目指す。</p>
<p>学習 活動 動</p>		<p>①生徒が「学習の基礎・基本が身につけられるような指導を行っている。」という設問に対して更に多くの生徒が肯定的な評価をするよう、授業改善に励んでいく。</p> <p>② 継続実施が決まっているモラールアップ会議による研修を通じて、授業展開の技術の向上を図る。</p> <p>③ 3・4年の商業科の授業を通じ、情報処理・ビジネス文書・簿記等の検定に対する受検指導を行い、検定試験に向かって計画的に学習する習慣を引き続き養い、合格による達成感・成就感を体験させることにより、更なる高見を目指すように指導する。</p>
<p>生徒 指導 導</p>	<p>①しっかりと生徒指導をしている。</p>	<p>① 家庭の協力を得ながら、生徒一人一人の基本的な生活習慣・授業への取組の改善をする。</p> <p>② 面談週間を例年通り実施する。</p> <p>③ 今年度もスクールカウンセラーによる、1年生全員面談を実施した。結果を職員に周知し、共通理解を図る。 今年度と同様に、生徒情報交換会を毎月1回ずつ開き、生徒理解を深めていく。</p>

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
キャリア教育	<p>②天夢塾の実施については良い評価をいただいた。</p>	<p>① 東南部サポートステーションや商工会議所との連携を継続深化させて、就業支援のためのインターンシップの実施や生徒のスキルアップを図る教育プログラムを継続実施していく。 次年度は就職希望者の増大が予想されるので、企業との継続的なアプローチを深めて、就業機会の拡大を引き続き図っていく。</p> <p>② 同窓会の支援による、天夢塾は継続実施の予定である。</p>
特別支援教育		<p>② 校内の特別支援教育推進委員会や外部機関中核地域生活支援センターと連携した特別支援教育連絡会議の充実を引き続き図る。</p> <p>③ 自校で特別支援教育を実施できるような研修の実施を図る。</p>